

コリント教会の聖餐式

初期の教会の聖餐式についてコリントの手紙に書かれています。コリントの教会の聖餐式は最悪のものでした。コリントの教会内には派閥があり互いにいがみあっていました。違いや弱さを攻撃の対象としていました。他者をかえりみない教会、交わり、聖餐式がありました。パウロはそのような教会に向けてキリストにあって私たちは一つであることを強調して語っています。

キリストのからだである私たち

聖書は違いも弱さも良いことであるといっています。イエス様を共に見上げイエス様のために生き互いを必要とし互いの違いを活かし助け合うようになるために違いや弱さが私たちに与えられています。全ての人キリストのからだを担う大切な存在です。(12:12-27) またパウロは愛のうちに教会が建てられると言いました。(エペソ 4:16) どのようにして教会は愛のうちに建てられるのか。要は仲良くすることです。軽く聞こえてしまうかもしれませんがとても大事なことです。仲が良いというのはよく話しよく遊び互いを尊ぶ。相手に興味、関心を持つという愛のある関係です。これを実践していくと教会は楽しくなります。欠点を補い良いところが生きていく喜びの場となっていきます。教会は世の中とは違います。キリストにあって違いや弱さを楽しみ、活かしていくところです。たくさんの違いがあるほど教会がますます豊かになり、力強いものへと成長していきます。それが教会の素晴らしさであり、おもしろさです。

キリストのからだとして

キリストによって救われた私。キリストによって一つのからだとされた私たち。聖餐式を通して異なる私たちが整えられ互いに心一つにし愛し合い仕えあっていきたい。仲良のいい教会、喜び満ち溢れるキリストのからだを建てあげる者たちとならせていただきたいと願います。共に一つの主に仕えキリストの栄光を現していきましょう。